

Ver.1.1 作成日：2026 年 7 月 30 日

項目		説明
試料・情報の利	研究課題名	高リスク急性骨髄性白血病に対する preconditioning intervention の移植成績
用目的	研究対象者	2014 年 1 月から 2026 年 3 月の間に神奈川県立がんセンター血液内科にて preconditioning intervention(移植前処置の直前に追加で化学療法を行うこと)を介して、同種造血幹細胞移植を受けられた高リスク急性骨髄性白血病の患者さん
及び	研究目的	同種造血幹細胞移植は、急性骨髄性白血病に対する有用な治療法の一つです。移植成績に大きな影響を及ぼす因子として、疾患因子が知られており、移植時非寛解を含む高リスク急性骨髄性白血病の移植成績は不良です。当院では、高リスク急性骨髄性白血病に対する移植前化学療法として、preconditioning intervention(PCI)の有用性を報告しました(Tachibana, et al. Exp Hematol, 2025)。PCI ではベネトクラクスが多用されましたが、これまでの移植成績との比較ができませんでした。そこで、本研究では、2021 年以降ベネトクラクスを用いた PCI と 2021 年以前の PCI を対象として、治療成績を比較検討することを目的としました。
利用方法	研究方法	神奈川県立がんセンターのみで実施される診療録および診療科データベースを用いた後方視的データベース研究。診療録やデータベースから、患者データを収集し、統計学的手法により PCI 移植の安全性と有効性を評価します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削除し、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	2 0 2 6 年 3 月 3 日 ～ 西 暦 2 0 2 9 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	☒ 総長が研究実施を許可した日 ☐ 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	☐ 試料:	☐ 血漿、 ☐ 血清、 ☐ 全血、 ☐ 末梢血から抽出した DNA、 ☐ 病理検体(具体的に記載: _____)、 ☐ 尿、 ☐ 糞便、 ☐ 唾液、 ☐ 胸水、 ☐ 腹水、 ☐ 脳脊髄液、 ☐ 毛髪、 ☐ その他(具体的に記載: _____)
	☒ 情報:	☒ 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、 ☒ 年齢、 ☐ 生年月日、 ☒ 性別、 ☐ 既往歴、 ☐ 併存疾患、 ☐ 外来日・入院日・退院日、 ☒ 臨床検査値、 ☐ 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 ☒ 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、 ☐ ゲノムデータ、 ☐ 看護記録、 ☒ その他(具体的に記載:PCI の詳細・移植関連情報)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 血液・腫瘍内科 田中正嗣
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	連絡先	神奈川県立がんセンター血液・腫瘍内科・田中正嗣 TEL:045-520-2222 利用停止のお申し出は 2026 年 12 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります